

(できていなかった)という現状が認識されました。分科会の最後には高橋暁子厚生労働省医政局総務課薬事情報専門官から連携現場での薬剤師への期待と薬局が関わった地域医療連携のよいモデル事例が提供されることへの期待が述べられました。

今回の分科会は、医療連携担当者にとっては「目からウロコ」の内容で地域医療連携への薬剤師の関わりの重要性を改めて認識することができ、今後薬剤師が連携現場へ参画することが期待される分科会となりました。

支部学術集会開催報告

第7回石川支部学術集会

当番世話人：金沢赤十字病院副院長 西村元一



会場風景

2009年11月8日(日)、第7回日本医療マネジメント学会石川支部学術集会が「コメディカルが支える医療」をテーマに石川ハイテク交流センターで開催されました。

一般演題9題と多摩大学大学院総合リスクマネジメント研究所の真野俊樹教授の特別講演の内容で約100人に参加していただきました。

一般演題では診療支援室、化学療法室、入院サービスセンターなどコメディカルが中心となっている部門での先進的な施設の取り組みに加えて様々な調査や経営分野へのコメディカルの関与など興味深い発表が続き、参加者からも多くの質問がありました。

また特別講演は「政権交代による医療の変化の見込みとDPC」のテーマでご講演をいただきました。ともに病院従事者にとって関心が高い領域でありタイムリーな内容でした。

今回は様々な会と重なったため参加者は例年より少なめでしたが、参加された方々には期待通りの内容であったものと思われます。

最後になりますが、今回の支部学術集会開催にあたり、ご協力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。

第2回福岡支部例会

代表世話人：国立病院機構九州医療センター副院長 冷牟田浩司

2009年11月14日(土)、国立病院機構九州医療センター講堂において第2回福岡支部例会を開催しました。



会場風景

年1回の福岡支部学術集会が一般演題中心であるのに対し、この会では身近なテーマ下で存分な討論を望む支部会員の声に答えて、シンポジウム形式で開催される会です。毎年

11月に開催しており、昨年の第1回の本会では「がん診療連携について」、今回は「栄養管理の現状と課題—地域一体型NSTを目指して—」をテーマとしました。福岡県下からNSTに関わる各職種スタッフ161名の参加のもと、活発な会でした。第1部では「栄養管理における各職種の役割と職種間の連携」と題して医師、歯科医師、栄養管理士、薬剤師、看護師、臨床検査技師、言語聴覚士の発表と討論、第2部シンポジウム「地域一体型NSTを目指して」では大学病院、急性期大規模病院、回復期リハビリテーション施設、中規模地域中核病院、在宅医療施設が集い、地域でのシームレスな栄養管理を目指して討論がなされました。参加者からは各職種や他施設の立場が理解できて有意義であったという意見が多かったようです。参加者の意見を交えて今後の本会の在り方を見つめていきます。

第5回愛知県支部学術集会

当番世話人：国立病院機構名古屋医療センター副院長 竹内榮二

2009年11月28日(土)、国立病院機構名古屋医療センター講堂(名古屋市)にて118人の参加の下で愛知県支部学術集会が開催されました。

今回は、2題の特別講演を設定し、患者サービス・コーディネーターの浅羽恵先生に「クレームにしないための患者接遇—座学を超えて—」、国立病院機構名古屋医療センターエイズ・治療開発センター長の濱口元洋先生及び感染・免疫カウンセラーの菊池恵子先生に「AIDS診療について」「患者さんから学んだこと」と題してご講演いただきました。今回は、従前と異なって、聴講だけでなく演者と一緒に参加するというスタイルで新鮮な取組でした。また、AIDS関係については、普段得られない情報を収集していただけたかと思えます。

一般演題では、「医療安全」「医療安全教育」「シームレスな地域医療連携」及び「がん疾患および緩和医療の連携」の4テーマと特別演題(3題)で口演いただきました。いずれの口演も大変有意義な内容であって、今後の医療においてきっと役立つものであると思っております。